

10月合評会作品『アイアン・スカイ』考察

合評会担当：郡山翔平

考察

『アイアン・スカイ』のアメリカの女性大統領は、明言は避けられているが、2008年に共和党の副大統領候補であった、超タカ派の共和党政治家サラ・ペイリンを明らかにモデルにしている。

『アイアン・スカイ』のアメリカの女性大統領は、大統領執務室を自分の好みに内装変えし、シロクマ、アラスカ狼、ヘラジカなど¹、趣味のハンティングで仕留めたアラスカ原産の動物の剥製を飾っている²。サラ・ペイリンはアラスカ出身である³。サラ・ペイリンは、全米ライフル協会終身会員であり、銃を持つ権利を主張し、銃規制に強く反対している⁴。大統領執務室に飾られたアラスカ原産の動物の剥製は、サラ・ペイリンが狩猟好きであるイメージを反映している。

サラ・ペイリンは、過激な、あるいは、馬鹿な発言で知られている。アフリカを一つの国だと思っていたり、韓国と間違えて、「我々は同盟国である北朝鮮を支持する」と発言したりしたことがある。

サラ・ペイリンの、レイプで妊娠した子どもの堕胎は不可、出産が母親の生命に関わる場合のみ堕胎を可とするという、レイプ被害者の堕胎に対する見解が、物議を醸したことがある。

サラ・ペイリンは、同性愛、イスラム教の寺院建設などに反対し、少数民族を攻撃するデマを撒き散らしてきた⁵。

サラ・ペイリンはキリスト教原理主義者である⁶。

サラ・ペイリンとジョージ・W・ブッシュには共通点がある。経験値の代わりに、聖書に書いてあることを基準に全てを判断する点である。アジア、イスラム諸国など、キリスト教以外の宗教を信仰する国、あるいは、ヨーロッパ諸国など、政治に宗教を介入させない国に対して、聖書を振りかざし、自らが正しいと主張することの独善性に気付いていないのである。

サラ・ペイリンは、アメリカを批判しつつ、馬鹿にして笑うために、ジョージ・W・ブッシュの保守的なアメリカを象徴させる人物として最適だと言える。

¹ 亀山登美、田中伸一編『iron sky パンフレット』P9

² 別冊映画秘宝、高橋ヨシキ、岸川靖編『ナチス映画電撃読本』P5

³ 亀山登美、田中伸一編『iron sky パンフレット』P9

⁴ 『サラ・ペイリン—Wikipedia』

⁵ 『映画秘宝 11月号』P13

⁶ 『映画秘宝 11月号』P13

アメリカの女性大統領が、「1 期目に戦争を始めた大統領は必ず再選されるのよ！」と言い、地下資源目当てで月に攻め込むことは、宇宙戦艦の名前がジョージ・W・ブッシュ号であることから明らかなように、ジョージ・W・ブッシュが石油と再選目当てでイラクに攻め込んだことを批判している⁷。

外部に敵を作り、団結するアメリカの伝統を批判している。

アメリカの行為は、ユダヤ人を弾圧し、アーリア人の結束を強化したナチスの行為と変わらない。

黒人モデルが、アメリカの女性大統領の選挙対策用の人気取り政策で、月に送り込まれることには、2つのメッセージが籠められている。

1つ目は、サラ・ペイリンが大統領になれば、憎たらしいオバマ大統領を月に左遷するであろうということのメタファーである。

2つ目は、選挙対策用の人気取り政策で、黒人モデルを月に送り込むことは、ショービジネスと化したアメリカの選挙活動の実態が強調されたものであり、ポピュリズム⁸が行き過ぎたアメリカの民主主義が批判されている。

黒人モデルが月に到達したところで、国家にも国民にも利益は無い。人気を取ることにしか考えておらず、国家のことも国民のことも考えていないアメリカの政治が批判されると言える。

真摯に愛と理想を訴えかけるレナーテの演説は、そのまま選挙演説に使えるので、レナーテはスピーチスタッフとして抜擢される。

ナチスとアメリカが重ねられ、ナチスの優生学⁹の思想と、アメリカの保守派の正義との間に、傲慢さという共通項が見出されている。

本質的には変わらない二つの思想の違いは、現代の世間によって、悪とみなされているか正義とみなされているかである。権威によって、悪か正義かは決められるのである。かつてナチス・ドイツの人々が洗脳されていたように、現代のアメリカの人々も洗脳されて

⁷ 『映画秘宝 11月号』 P13

⁸ 政治に関して理性的に判断する知的な市民よりも、情緒や感情によって態度を決める大衆を重視し、その支持を求める手法、あるいは、そうした大衆の基盤に立つ運動をポピュリズムと呼ぶ。ポピュリズムは諸刃の剣である。庶民の素朴な常識によってエリートの腐敗や特権を是正するという方向に向かう時、ポピュリズムは改革のエネルギーとなることもある。しかし、大衆の欲求不満や不安をあおってリーダーへの支持の源泉とするという手法が乱用されれば、民主政治は衆愚政治に墮し、庶民のエネルギーは自由の破壊、集団的熱狂に向かい得る。(引用元：山口二郎(北海道大学教授)『ポピュリズムとは一コトバンク』)

⁹ 優生学とは、人類の悪性の遺伝的素質を淘汰し、改善をはかろうとする思想である。優生学は、人間社会においても生物淘汰による進歩を促すべきという社会ダーウィニズムの思想に基づいている。

いるのである。

このメッセージは、チャールズ・チャップリン監督『独裁者』の、反差別を訴えるラストの演説がカットされ、アドルフ・ヒトラー礼賛映画に変えられていたことに籠められたメッセージと共通している。編集によって、メディアの伝えるメッセージは180度変わり、それによって、大衆を洗脳できるのである。

ナチスの宣伝大臣ヨーゼフ・ゲッベルスは、プロパガンダの力を理解し、メディアによる大衆洗脳を指揮した。ウォルター・リップマン(1922)は、『世論』で、民主主義社会においては、マスメディアにより、民主主義の基盤である国民の合意をコントロールできると述べている¹⁰。ナチスのメディアによる大衆洗脳は、民主主義の名の下に、アメリカで繰り返されているのである。

ヴィヴィアンが、iPadのようなハイテクなデスクの上にポスター案を並べているシーンがある。黒地にアメリカの女性大統領の顔が大きく印刷され、その下に「Yes」とだけ書かれたポスターは、アドルフ・ヒトラーが1932年の選挙で使用したポスターに似せられている¹¹。その下には、1937年4月20日¹²に撮影された、アドルフ・ヒトラーの有名なポートレート写真に似せられた写真が映っている¹³。

アメリカの象徴である、アメリカの女性大統領を、アドルフ・ヒトラーと重ねることで批判している。

『アイアン・スカイ』には、アメリカをナチスと重ねることで批判するシーンが数多くある。

激怒し、部下を怒鳴りつけるヴィヴィアンは、『ヒトラー/最期の12日間』のアドルフ・ヒトラーと重ねられている¹⁴。このシーンはYouTubeなどの動画投稿サイトで数多くのパロディを生み出した。これらは、元のドイツ語のセリフに適切な字幕をつけて冗談にした映像で、日本では、「総統閣下はお怒りです」シリーズ¹⁵として知られている。このシーンのアドルフ・ヒトラーは、英語、日本語を問わず、現在もありとあらゆる下らないことを言わされて続けている。

『ヒトラー/最期の12日間』のこのシーンのパロディは、アメリカをナチスに重ね、批判しつつ、馬鹿にして笑うために最適だったと言える。

歴史上、最も高度な福祉国家を実現したのはナチス・ドイツだと言われている。

アドルフ・ヒトラーは、1933年に首相になり、政権を握った。当時は世界恐慌だった上

¹⁰ウォルター・リップマン『世論(下)』第6部「民主主義のイメージ」

¹¹亀山登美、田中伸一編『iron sky パンフレット』P9

¹²4月20日はヒトラーの誕生日である。

¹³亀山登美、田中伸一編『iron sky パンフレット』P9

¹⁴亀山登美、田中伸一編『iron sky パンフレット』P9

¹⁵総統閣下が相当かっかしてお怒りになっているさまから名付けられたシリーズ名である。

に、ドイツは第一次世界大戦の賠償金を払わねばならず、景気が悪化し、失業者が続出していた。

アドルフ・ヒトラーは、インフラ整備や軍需産業の増大により雇用を創出し、失業者を激減させた。公共事業の中心となった政策は、アウトバーン¹⁶という、制限速度の無い高速道路の建設である。アウトバーン建設は、雇用を創出しただけでなくとどまらず、ドイツの重要な交通路として、ドイツ産業の発展に大きく貢献した。さらに、大規模な事業計画を行うことを積極的にアナウンスし、人々が景気回復の期待を持つように働きかけ、実際に人々はお金を使うようになり、景気は回復した。

その他にも、中高年を優先的に雇用する、大規模店の出店を制限して中小店を守る、中小企業への融資制度を整える、価格統制により物価を安定させるなど、様々な経済政策を行った。

これらの経済政策により、アドルフ・ヒトラーは、失業問題をわずか数年で解決し、経済を安定させ、ナチス・ドイツは、どこの国よりも早く世界恐慌から抜け出した。

ドイツ経済に驚異的な復興をもたらしたアドルフ・ヒトラーは、労働者から熱狂的な支持を集めた。

アドルフ・ヒトラーは、レクリエーション政策にも力を入れた。1933年から、音楽コンサート、日帰り旅行、リゾート地やクルーズ船での保養など、それまで労働者には手が届かなかったようなレジャー活動を、広く国民全体に提供した¹⁷。実現はしなかったが、一家に一台フォルクスワーゲン¹⁸を販売するスローガンが掲げられ、労働者でも自家用車が買えるようにした積立制度が設けられた¹⁹。

¹⁶『アイアン・スカイ』では、月面にアウトバーンが建設されている。

¹⁷ナチス党政権下のドイツにおいて国民に多様な余暇活動を提供した組織に歓喜力行団がある。娯楽の「喜び」を通じて労働の「力」を回復させるための党組織である。その活動は国民的人気を集めた。歓喜力行団の究極の目的は2つあった。1つ目の目的は、余暇活動を、上流階級から下流階級まであらゆる大衆に格差なく提供することで、階級ごとに分断されたドイツ人を、階級対立の無い、一つの「民族共同体」にまとめることであった。2つ目の目的は、「生の喜び」を肯定する余暇、スポーツ、演奏会、祭典などの機会を国民に提供することで、ナチスの理想とする、力強さや美しさなどの共同体の理念や存在を、大衆に全身で理解させ、信じさせることであった。(引用元：『歓喜力行団—Wikipedia』)

¹⁸ドイツ語で大衆車を意味する。

¹⁹歓喜力行団は、労働者のための手頃な価格の自動車の購入に関与した。これは、ヒトラーが政権に就いた直後に発表した国民車構想に基づく「フォルクスワーゲン・タイプ1」である。1938年に正式に「歓喜力行団の車」と名付けられた。歓喜力行団は、労働者向けに、「歓喜力行団の車」を購入するための特別貯蓄制度を設けた。「自家用車に乗りたいなら、毎週5マルク貯めよう」というスローガンの下、33万6000人程が積立金を支払った。しかし、翌年の第二次世界大戦の開戦により、実際に納車されることはほとんどなかった。自動車工場も戦争のために軍用車生産へと回された。戦後、新たに創業したフォルクスワーゲン社は、積立金を支払った人々に応え、歓喜力行団が実現し得なかった納車を行った。(引用元：『歓喜力行団—Wikipedia』)

アドルフ・ヒトラーは、健康政策にも力を入れた。ロバート・N・クロプター(2003)は、ナチス・ドイツを「健康帝国」と形容している²⁰。喫煙と肺ガンの関連は、ナチス・ドイツで初めて証明された²¹。アスベストの使用の制限、発ガン性のある殺虫剤や着色料の禁止、禁煙運動などは、ナチス・ドイツで初めて行われた²²。健康は善、不健康は悪という命題の下に、国民に健康を義務付けた。

ナチス・ドイツの健康志向は、根拠の無い恐怖感から危険因子を全て排除する優生学の思想から生まれた²³。優生学の思想は、「ドイツ民族、すなわち、アーリア民族を世界で最も優秀な民族にするため」に、「支障となるユダヤ民族」の絶滅を企てる民族浄化に繋がる²⁴。

ナチス・ドイツの福祉政策は、その後の日本や欧米の福祉政策の手本となり、現在に至っている。

聖火リレーが始まったのは、1936年のベルリン・オリンピックからである。聖火リレーにより、ギリシャの古代オリンピックと、ドイツの近代オリンピックが、時を超えて繋がっていることを視覚的に演出し、オリンピックを神話化した。聖火は文明の象徴である²⁵。ギリシャ文明は、世界史上最も優雅な文明で、ヨーロッパ諸文明の起源とされている。聖火リレーにより、ギリシャ文明を継承するのはドイツだと世界にアピールしたのである。これにより、国民のナショナル・プライドを高めた。

エリック・ボブズボウム (1983)は、『創られた伝統』で、私たちが昔から続けていると考えている伝統は、実はその多くが、何らかの目的のために、近代以降に「創られた伝統」と述べている²⁶。エリック・ボブズボウムは、近代における新たな目的のために、既存の伝統が用いられたり、歴史的な材料を元に新たな伝統が創られたりすることを、「伝統の創造」と呼び、近代になって大量に創られた伝統が、国民文化を形成していくと考えた²⁷。

19世紀後半のドイツ国民は、早くに近代革命を起こしたフランス国民と比べられ、「遅れ

²⁰ロバート・N・プロクター『健康帝国ナチス』

²¹『ナチス・ドイツの反タバコ運動—Wikipedia』

²²ロバート・N・プロクター『健康帝国ナチス』

²³ロバート・N・プロクター『健康帝国ナチス』

²⁴ヒトラーは、『わが闘争』第11章で、「梅毒に象徴される悪性の疾患にかかった個人＝社会(民族)は、その汚染源＝悪の張本人を根絶することによってのみ救われるとする。国民の肉体の病は、自然に反する思想と行動(民族精神の売春化＝ユダヤ化)の結果であり、自然の法則、つまりは優勝劣敗によってはじめて社会は治癒回復することができる」と述べている。(引用元：芝健介『ホロコースト ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』P18)

²⁵人類は火の使用により、照明、暖を取る、獣から身を守る、食物に火を通すなど多くの利益を得た。火の使用により初めて人類は文明を持つ余裕を持てた。よって、火は文明の象徴なのである。(引用元：『火—Wikipedia』)

²⁶エリック・ボブズボウム、テレンス・レンジャー編『創られた伝統』

²⁷エリック・ボブズボウム、テレンス・レンジャー編『創られた伝統』

てきた国民」と呼ばれていた。そこで、ラテン文明の末裔であるフランスでは、ギリシャ文明を継承するドイツに敵うはずが無いと思ひ込むことで、フランスへのコンプレックスを振り払ったのである。

神話、すなわち、共通の起源を設定することで、国民を創出し、国民の社会的結合を強化したのである。

ベルリン・オリンピックの写真に映っているアーリア人は、皆笑顔である。ベルリン・オリンピックを心の底から楽しんでいたことが窺える。

ナチス・ドイツは、アーリア人にとっては、ナショナル・プライドを持てる素晴らしい国家だったと考えられる。

ギリシャ文明を継承するドイツ国民の象徴として設定されたのがアーリア人である。アーリア人の社会的結合が強くなり過ぎた結果、アーリア人でないとドイツ人でないというロジックに繋がり、ユダヤ人差別の正当化に繋がった²⁸。

フランスとドイツの境界は、1947年のウェスト・ファリア条約まで決まっていなかった。言語、宗教、文化の異なる、隣接する地域の人々とどう接して良いか分からず、ドイツの都市化に伴って多くの人々が移動し、社会不安が募った。社会不安を解消するための、人々のアイデンティティの拠り所が必要であった。社会不安を解消するために、国民をまとめるナショナルな単位が必要だったのである。

国民をまとめ、社会不安を解消するために、神話、すなわち、共通の起源を設定したのである。

国民をまとめるナショナルな単位は、ドイツ語の教育制度を整える、ドイツ語のメディアを整えるなど、法制度を変えることで、実現する。

ベネディクト・アンダーソン(1983)は、『想像の共同体』で、国民国家とは、その構成員が「共同幻想」を共有することにより、不確かなものが確固たる実在だと思ひ込まされているものに過ぎないと述べている²⁹。

このように、共通のアイデンティティにより、国民を創出することは、あらゆる国民国家が通る道である。

ナチス・ドイツは、社会不安の解消に取り組み、それが上手く行き過ぎた結果、アーリア人の社会的結合が強くなり過ぎ、ユダヤ人に対して排他的になってしまったのである。

ナチス・ドイツは、アーリア人にとっては、ナショナル・プライドを持てる、歴史上最も高度な福祉国家だった一方で、国外では諸外国に対して侵攻を繰り返し、国内ではユダヤ人を弾圧し、同調しない人々もユダヤ人として弾圧した、矛盾を抱えた国家であった。

²⁸ヒトラーは、『わが闘争』第11章で、歴史は文化創造人種であるアーリア人と、文化破壊人種であるユダヤ人との闘争だと定義している。文化を保持するためには創造的人種を維持しなくてはならないのである。(引用元：芝健介『ホロコースト ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』P18)

²⁹ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』

しかし、そのような矛盾は、あらゆる 20 世紀の国民国家が潜在的に持っていたものである。そのような矛盾が最も極端な形であらわれたのがナチス・ドイツだったのである。

大量虐殺を行ったのはナチスだけではない³⁰。ソヴィエト連邦のスターリンは大粛清³¹を行い、アメリカは日本に原子爆弾を落とした³²。

ナチスの風刺がタブーとされている現状は³³、ナチスを異質な他者とし、悪というレッテルを張ることで、自己の中の悪から目を背けているに過ぎないのである。ナチスは異質な他者ではなく、人間の本質を極端な形であらわしたに過ぎない。

アドルフ・ヒトラーは労働者階級の出身であり、正当な民主主義選挙で選ばれた政治家である³⁵。宇宙からやってきた異質な他者ではない。

アドルフ・ヒトラーには、周囲の人々を惹き付けてやまない人間的魅力があった³⁶。ハインリヒ・ヒムラーを筆頭とするナチスの幹部たちも、私たちと同じ人間であった。全ドイツ警察長官として、ホロコーストを組織的に実行したハインリヒ・ヒムラーは、勤勉実直な田舎の校長先生のような人物であったと言われる³⁷。宣伝大臣ヨーゼフ・ゲッベルスは、

³⁰1942年2月から1944年12月までのホロコーストの犠牲者数は、アウシュヴィッツで110万人、絶滅収容所6ヶ所合計500万人以上である。(引用元：秦郁彦、佐瀬昌盛、常石敬一共著『文藝春秋八月号「20世紀戦争犯罪ワースト20」』)

³¹ソヴィエト連邦の最高指導者スターリンが1930年代に行った大規模な政治弾圧。ソヴィエト連邦共産党内における幹部政治家の粛清にとどまらず、一般党員や民衆にまで及んだ。大粛清による死亡者の総数には50万人説から700万人説に至るまで諸説あり、長きにわたり論争になっている。(引用元：『Weblio 辞書—大粛清』)

³²原爆による死亡者数は、広島約14万、長崎約7万人である。ちなみに、東京大空襲による死亡者数は8万人である。(引用元：秦郁彦、佐瀬昌盛、常石敬一共著『文藝春秋八月号「20世紀戦争犯罪ワースト20」』)

³³ナチスは、民主的手続きに従い、全権委任法などの全体主義体制を敷き、権力を握った。これを反省し、1949年に成立したドイツ連邦共和国は、「戦闘的民主主義」を掲げた。戦闘的民主主義とは、民主主義を否定する発言と組織の存在を認めない主義である。以降のドイツでは、ナチスやアドルフ・ヒトラー、もしくはその行為を礼賛し、差別を煽るあらゆる主張や行為は処罰される。ナチスのシンボルであるハーケンクロイツは、反ナチ表現を除くあらゆる使用が禁止されている。メディアなどにおいてもハーケンクロイツの使用は認められていない。(引用元：『戦う民主主義—Wikipedia』)

³⁴『アイアン・スカイ』の製作のテロ・カウコマーは、「ヒトラーとユダヤ人にまつわる悲惨な話は間違いなく問題になると考え、そうした描写は登場させないようにしようと脚本段階で決めていた」と述べている。(引用元：『ナチス映画電撃読本』P37-P38)ユダヤ人強制収容所を舞台にした、ロベルト・ベニーニ監督『ライフ・イズ・ビューティフル』でも、「お友達がセッケンやボタンになっちゃった！(ユダヤ人の死体からセッケンを製造していた)」というセリフが物議を醸した。このことから、ヒトラーとユダヤ人にまつわる悲惨な話を描くことがいかに難しいかが分かる。

³⁵別冊映画秘宝、高橋ヨシキ、岸川靖編『ナチス映画電撃読本』P28

³⁶別冊映画秘宝、高橋ヨシキ、岸川靖編『ナチス映画電撃読本』P66

³⁷別冊映画秘宝、高橋ヨシキ、岸川靖編『ナチス映画電撃読本』P66

子煩悩でアートに造詣ぞうけいが深い人物であった³⁸。ドイツ空軍総司令官ヘルマン・ゲーリングは、見栄っ張りの贅沢好きの人物であった³⁹。

大量虐殺は、私たちと同じ人間の手によって行われたのである。

民主主義の暴走がナチスを生み出した。世界中のあらゆる民主主義国家が、ナチスになる可能性を潜在的に持っている。

民主主義という概念は、アメリカにより、正しいものとして世界中に普及された。

アメリカによる民主主義の普及の目的は、アメリカにとって都合の良い政権の樹立し、アメリカの軍事的拠点やグローバル企業を進出させ、資源を安定的に確保することである。

アメリカは、「民主的でない」という理由で、イラクやアフガニスタンを攻撃したり、北朝鮮、シリア、イランなどを非難したりしている⁴⁰。

正しいはずの自分たちの民主主義が、暴走する可能性を潜在的に持っていると認めたくないから、ナチスを異質な他者とし、悪というレッテルを貼り、ナチスが何故生まれたのか考えることをタブーとするのである。自分たちが本質的にはナチスと変わらないと分かることを恐れているのである。自分たちはナチスとは違うと信じたいのである。

『アイアン・スカイ』は、ナチスの風刺をタブーとする現状から、ナチスの行為は正義の名の下にアメリカによって繰り返されていることを、鋭い視点で抉り出したのである。

『アイアン・スカイ』は、『アイアン・スカイ』にとって最も不謹慎な地であるはずの、ドイツのベルリン映画祭でプレミア上映され、肯定的に迎えられた。

『アイアン・スカイ』の監督のティモ・ヴォレンソラは、『アイアン・スカイ』がドイツで肯定的に迎えられた理由について、次のように述べている。

「いまだにドイツ人たちは自分達が第二次世界大戦で行ってきたことは犯罪同然だと考えている。だから第二次世界大戦を描いた映画だとしても正視できなかった。だから「月にナチスがいる」という突拍子もないアイデアのこの映画が上映された時、こんな映画が作られて本当に良かったと言われたんだ。それは過去に悪行を働いたナチスとは全く違う、「月のナチス」というあり得ないコンセプトだったからこそ、他の人たちと同じように映画を観て笑うことができたんだと思う。」⁴¹

タブーに挑み、ナチスの行為が悪いことは間違いないが、それは歴史上、あらゆる国民

³⁸別冊映画秘宝、高橋ヨシキ、岸川靖編『ナチス映画電撃読本』P66

³⁹別冊映画秘宝、高橋ヨシキ、岸川靖編『ナチス映画電撃読本』P66

⁴⁰アメリカのこのようなスタンスは今に始まったことではない。かつてのアメリカは、合法的に選ばれたチリのアジェンデ政権や、パナマのノリエガ政権を転覆させた。キューバで人々が革命により打ち立てたカストロ政権に対しては、今なお制裁を行い、転覆させようとしている。

⁴¹別冊映画秘宝、高橋ヨシキ、岸川靖編『ナチス映画電撃読本』P31

国家によって繰り返されてきたことであり、アメリカによって繰り返されていると訴え、ドイツ人を罪悪感から解放したからこそ、『アイアン・スカイ』はベルリン映画祭で肯定的に迎えられたのである。

映画業界には、オマージュという伝統がある。オマージュとは、ある作品への尊敬の気持ちを表現するために、ある作品のワンシーンを、シチュエーションを変えて再現することである。背景知識を持っている観客には、そのシーンがオマージュだと分かる。背景知識を持っていると、映画に籠められた裏の意図が見えてくるので、映画に対する違った視点を持つことができるのである。

『アイアン・スカイ』には、数多くの作品へのオマージュが詰め込まれているが、スタンリー・キューブリック監督『博士の異常な愛情〜』⁴²へのオマージュが、『アイアン・スカイ』の根底を貫いている。

『アイアン・スカイ』の、アーリア人にされた黒人モデルが、車椅子に乗って登場し、ついナチス式の敬礼をしようとする右手を押さえつけて七転八倒するシーンでは、『博士の異常な愛情〜』のストレンジラヴ博士が、「総統、立てます！」と言い、車椅子から立ち上がるシーンが再現されている。

『アイアン・スカイ』の、巨大な円卓を囲んだ「国際同盟」の会議室は、背後の巨大スクリーンなども含め、『博士の異常な愛情〜』の作戦司令室のセットが意識されている⁴³。

『博士の異常な愛情〜』には当初、作戦司令室に集まった高官たちの口論がパイ投げ合戦へと発展するというシーンが構想されていて、実際に撮影されている。しかし、パイ投げ合戦でエンディングを迎えると、笑いの要素が強くなり過ぎてしまい、社会風刺の要素が薄れてしまうので、このシーンはカットされた。『アイアン・スカイ』の終盤の、各国の代表たちが実際に取っ組み合いを始める展開は、『博士の異常な愛情〜』の「カットシーン」を含めたオマージュになっている。

このオマージュからは、『博士の異常な愛情〜』で風刺されたかつての世界情勢から何も変わらず、むしろ、風刺する価値も無くなる程にまで落ちぶれた現代の世界情勢を、とことんまで馬鹿にして笑ってやろうという監督のスタンスが感じられる。

アメリカを風刺することよりは、アメリカを馬鹿にして笑うことに力点が置かれていると言える。

『博士の異常な愛情〜』は、冷戦下に、偶発的な原因で核戦争が勃発しそうになり、人類滅亡の危機が迫っている状況で、利己的な政府や、軍の上層部が慌てふためく様相を描

⁴²『博士の異常な愛情 または私は如何にして心配するのを止めて水爆を愛するようになったか』という邦題は長いので、『博士の異常な愛情』と略して呼ばれることが多い。

⁴³亀山登美、田中伸一編『iron sky パンフレット』P9

いたブラック・コメディである。『博士の異常な愛情〜』が公開された 1964 年は、ベトナム戦争、キューバ危機、レオニード・ブレジネフのクーデターなどの最中であり、一触即発の状況であった。その時期に、あえて非常に危険な風刺で核兵器の恐怖を知らしめたのである。

『博士の異常な愛情』は、米ソ冷戦の緊迫した世界情勢の中で、タブーとされていた核兵器の問題に正面から挑んだ作品である。

『アイアン・スカイ』も、ナチスの風刺という、映画業界のタブーに正面から挑んだ作品である。

『アイアン・スカイ』は、『博士の異常な愛情〜』から続く、ブラック・コメディの系譜に連なろうという、ティモ・ヴォレンソラ監督の強い信念が感じられる作品だと言える。

参考画像



(画像元：『『アイアン・スカイ』：月はアメリカの領土！—Seiji's Feels So Good!!』)

参考文献

- ・『映画秘宝 11 月号』 洋泉社,2012 年
- ・『キネマ旬報 10 月上旬号』 キネマ旬報社, 2012 年
- ・『キネマ旬報 10 月下旬号』 キネマ旬報社, 2012 年
- ・『文藝春秋八月号』 文藝春秋社,2002 年 秦郁彦、佐瀬昌盛、常石敬一共著「20 世紀戦争 犯罪ワースト 20 を選んだ」
- ・ウォルター・リップマン著、掛川トミ子訳『世論(下)』 岩波書店,1987 年 第 6 部「民主主義のイメージ」
- ・エリック・ホブズボウム、テレンス・レンジャー編、前川啓治、梶原景昭訳『創られた伝統 (文化人類学叢書)』 紀伊國屋書店,1992 年

- ・ 亀山登美、田中伸一編『iron sky パンフレット』花田康隆発行, 2012 年
- ・ 芝健介『ホロコースト ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』中公新書, 2008年
- ・ 別冊映画秘宝、高橋ヨシキ、岸川靖編『別冊映画秘宝 ナチス映画電撃読本(洋泉社 MOOK)』洋泉社,2012 年
- ・ ベネディクト・アンダーソン著、白石さや、白石隆訳『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』NTT 出版,1997 年
- ・ ロバート・N・プロクター著、宮崎尊訳『健康帝国ナチス』草思社,2003 年
- ・ 『『アイアン・スカイ』: 月はアメリカの領土! —Seiji's Feels So Good!!』最終閲覧日 2012/10/19
<http://ishiharaseiji.net/wp/blog/archives/1690>
- ・ 『歓喜力行団—Wikipedia』最終閲覧日 2012/10/20
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%93%E5%96%9C%E5%8A%9B%E8%A1%8C%E5%9B%A3>
- ・ 『サラ・ペイリン—Wikipedia』最終閲覧日 2012/10/18
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%83%A9%E3%83%BB%E3%83%9A%E3%82%A4%E3%83%AA%E3%83%B3>
- ・ 『大粛清—Weblio 辞書』最終閲覧日 2012/10/19
<http://www.weblio.jp/content/%E5%A4%A7%E7%B2%9B%E6%B8%85>
- ・ 『戦う民主主義—Wikipedia』最終閲覧日 2012/10/24
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%88%A6%E3%81%86%E6%B0%91%E4%B8%BB%E4%B8%BB%E7%BE%A9>
- ・ 『ナチス・ドイツの反タバコ運動—Wikipedia』最終閲覧日 2012/10/19
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8A%E3%83%81%E3%82%B9%E3%83%BB%E3%83%89%E3%82%A4%E3%83%84%E3%81%AE%E5%8F%8D%E3%82%BF%E3%83%90%E3%82%B3%E9%81%8B%E5%8B%95>
- ・ 『火—Wikipedia』最終閲覧日 2012/10/19
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%81%AB>
- ・ 山口二郎(北海道大学教授)『ポピュリズムとは—コトバンク』最終閲覧日 2012/10/20
<http://kotobank.jp/word/%E3%83%9D%E3%83%94%E3%83%A5%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0>

会員の感想

一回生

・思ったよりおバカ度が低かったですね……。大統領に靴投げのネタとか、ヒトラーのパロとか良かったですけど、もっとつき抜けてほしかったかな。何か語れって言われても何も出てきません。こういうのはテキトーにダベりながら楽しむのが良いでしょう。これ、なんかのパロなんだろうなーと思うシーンがいくつも出てきましたが、何かは分かりませんでした。レナーテ美しいですね！ナチの科学力があんなもんだなんて僕は信じませんよ(笑)というか未来的なんだか前時代的なんだか。ひとつ分かったことは、iPadで地球が潰せるらしいってことでしょうか。これがドイツ、オーストラリア、フィンランドの製作ってのには脱帽です。

・私にはよく分からない話でした。でも、おもしろかったです。ストーリーは明確でわかりやすく楽しめたけど、ところどころセリフとかによく分からない小話が含まれていたんで、それも分かったらもっと楽しめたかなと思います。

二回生

・久々に笑える映画を観た。とにかく、バカバカしく、まじめなはずのシーンも笑ってしまった。時代遅れのナチスを用いたが、同時にアメリカをかなりコケおろしにしていた。大統領は4年前ヘマをしたペイリン、黒人を見下すようなシーン、アメリカという国家がむちゃくちゃということを痛烈に描いていた。その反面YouTubeでおなじみの「総統閣下はお怒りのようです」のパロディや、CGもトランスフォーマーに匹敵する出来で感心した。

・バカ映画。しかし最初と最後の無駄な荘厳さなどVFXは意外としっかりしていた。BGMの安直さなどもバカにより一層拍車をかけていて良かった。

三回生

・この手の映画はほとんど観たことがなく、評価の仕方がわからないというかなんというか……。個人的には“ムーン・ナチ”よりアメリカが皮肉等全て込みでちゃんと“アメリカ”として描かれているところに面白みを感じました。あと、女性のスタイルがボディコンにキツめのメイク、と’80年代的で印象的でした。

・なかなか際どいブラックジョークで、アメリカや国際社会を皮肉りつつ、楽しいB級娯楽映画に仕上がっている。テンポの良い展開、魅力的なヒロイン、『博士の異常な愛情』へのオマージュなどがとても良かった。戦闘シーンは物足りなかったが、がんばったと思う。終わり方もすごく好き。